

倫理委員会審議内容

令和1年9月26日開催

No.1	申請者：看護師 名幸 広友	
課 題	自傷行為・自己感覚刺激の著しい強度行動障害を持つA氏の看護 ～行動療法を用いた効果の検証～	
研究の概要	<p>当病棟は重症心身障害児(者)の利用者が入所されており、強度行動障害のある入所者も少なくない。知的障害のある人の行動障害については、これまでの研究により、その行動を引き起こす背景があるとされている。</p> <p>A氏は精神科急性期病棟で入院治療中であつたが、現在、重症心身障害児(者)病棟に転棟され加療中である。現在、自傷行為が見られるため、身体拘束で対応しているが、徐々に身体拘束解除でき行動拡大が図れている。今後、行動拡大後A氏の拘りや要求が表出した場合、その対応が困難となる場面が出てくると想定される。強度行動障害が見られる利用者との集団生活の中で、A氏はパニックになり、自傷行為がエスカレートする可能性がある。自傷行為を止めさせる目的で要求を許容すると、自傷行為により、要求が通るのだと不適切な学習をしてしまう可能性がある。行動拡大を図るには早期にA氏の拘りや要求を把握していく事が必要となる。また、自傷行為の原因分析の一つとしてMotivation Assessment Scaleを活用し、A氏は自己感覚刺激を求めて自傷行為に及んでいる事が解っている。</p> <p>先行研究において、他利用者へ行動療法を活用した関わりから、不適切な行動の原因分析に繋がり、適切なフィードバックにて行動の変容がみられた。そのことから、A氏が自傷行為へ至る要因を解き明かす事で、自傷行為の頻度を減少させる関わりができるのではないかと考えたため、行動療法を活用し検証する。</p>	
判 定	承認	
利益相反審査判定	承認	

倫理委員会審議内容

No.2	申請者：看護師 深田 健一	
課 題	認知症病棟における入院患者の転倒・転落の実態と予防対策の検討 ～インシデント報告の実態調査より～	
研究の概要	<p>当病棟において、転倒・転落はもっとも多く発生しているインシデントであり、予防対策が課題となっている。転倒に対し認知症がどのような影響を及ぼしているのか、当病棟の症例を通して調査したいと考えた。転倒・転落発生時の患者の状況・要因を調査し、今後の予防対策の指標を作成することを目的とした。</p>	
判 定	承認	
利益相反審査判定	承認	